

チャのチャドクガ

1 形態と生態

- (1) 雌成虫は体長11～13mm、触角は糸状、雄成虫は7～10mm、触角はクシ状。
- (2) ふ化幼虫は2mm程度ですが、十分成長すると25～30mmにもなります。
- (3) 年2回発生し、卵で越冬します。卵は古葉の裏側に卵塊として産みつけられます。
- (4) 4月下旬から5月上旬、7月下旬から8月上旬に、葉裏の卵塊からふ化幼虫が発生します。
- (5) 幼若齢期は集合して生活します。幼虫は激しく茶葉を食害するため、茶葉のない枝が坪状に現れたり、葉裏に黒い虫糞が多く貯まったりします。
- (6) 成虫は日没ころ活発に飛び回り、灯火にも集まります。



写真1 チャドクガの形態

①卵塊、②若齢幼虫、③中齢幼虫、④成虫

2 被害の様子

- (1) ふ化幼虫は卵塊の付着部周辺の葉肉を食害します。また、幼虫が成長すると葉裏に群集し、活発に葉肉を摂食します。このため、葉裏から見て葉の一部が透けるような被害が現れます。
- (2) 大きく成長した幼虫は、大量の茶葉を葉縁から食害し、茶葉が著しく減少します。
- (3) 食害が甚だしいときは坪状に葉のない枝だけの状態になります。
- (4) 本種は触れるとかぶれを起こす衛生害虫で、茶園の作業時に幼虫や卵塊、成虫等に直接触れると、痛みをとまなう強いかゆみを生じたりします。



写真2 チャドクガ若齢幼虫による食害の様子



写真3 チャドクガの幼虫が多発した茶園

3 発生について

(1)発生条件

- ア 茶園はもとより、畦畔茶、生け垣や植木のツバキやサザンカで発生します。
- イ 山間山沿地域での発生は比較的少なく、また、慣行防除茶園での発生はあまりありません。
- ウ 突然各地で大発生することがあります。多発年には、慣行防除茶園でも発生することがあります。

(2)発生消長

- ア 年2回発生し、卵で越冬します。
- イ 幼虫は、4月下旬から5月上旬、7月上旬から8月上旬に葉裏に産み付けられた卵塊から発生します。
- ウ 成虫は、7月中旬と10月上旬に発生します。

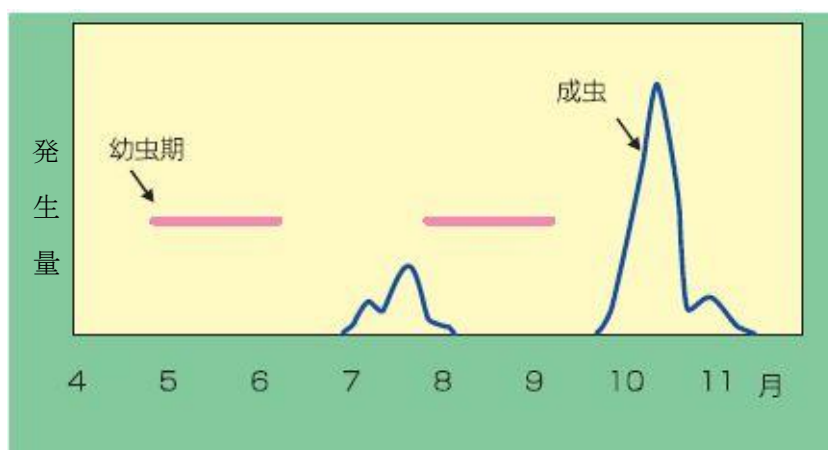


図1 チャドクガ成虫の発生消長と幼虫の発生時期

4 防除時期と防除方法

- (1) 幼虫が集団で生活する時期に防除対策を実施することが重要です。
- (2) 登録薬剤で防除します。
- (3) 減農薬や無農薬栽培条件下での本種の対策は、まだ十分に確立されていません。
- (4) 秋期の産卵期における摘採面から上部10cm程度の整枝により、翌年一番茶樹における越冬世代幼虫の発生を抑制することができます。
- (5) 各ステージの虫体や脱皮殻等に触れてしまった場合は、患部をこすらず、毒針毛が刺さらないようにしながら、洗い落とすことに努め、抗ヒスタミン剤等の外用薬を使用します。ひどい場合は医師の手当を受けましょう。

薬剤防除を実施する場合は、

- 最終有効年月内の農薬を使用し、ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を必ず確認してください。
- 適切な薬剤を選択し、病害虫が抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。
- 農薬を散布する際は飛散しないよう対策を講じてください。

■ 発行 平成28年2月 埼玉県農産物安全課、一般社団法人埼玉県植物防疫協会

■ 問合せ先(原稿執筆)

埼玉県茶業研究所栽培担当 TEL04-2936-1351、埼玉県病害虫防除所 TEL048-539-0661